



2018年9月28日

報道関係者各位

京都大学
慶應義塾大学

日本医学史研究者の旧蔵書、没後 70 年以上の時を経て 『デジタル富士川』として一堂に

—京都大学と慶應義塾大学の図書館が連携プロジェクト—

京都大学図書館機構と慶應義塾大学メディアセンターは、「富士川文庫デジタル連携プロジェクト」（通称「デジタル富士川」）に関する覚書を締結し、デジタル画像相互運用のための国際規格 IIF（International Image Interoperability Framework）を用いて、両大学が所蔵する古医書コレクション「富士川文庫」の画像データを統合表示する試行ウェブサイトを、2018年9月28日に公開しました。

「富士川文庫」は、京都帝国大学医科大学や慶應義塾大学医学部などで医学史を講じた、文学博士・医学博士の富士川游（ふじかわ ゆう）氏（1865-1940）の旧蔵書です。富士川博士は、『日本医学史』（1904年）、『日本疫病史』（1912年）などの名著を執筆・刊行しましたが、その際の参考資料として、平安期から明治初期にかけての和漢の医学書と、江戸中期以降、特に幕末期の西洋医学書の翻訳書を主体とする、歴史的資料を蒐集しました。

本プロジェクトは、両大学が分散して所蔵する「富士川文庫」を一堂に公開することを通じて日本医学史の研究・発展に寄与するとともに、IIF の利点を活用した分散コレクション仮想統合の一例を提示するものです。連携プロジェクトの実施期間として設定した 2020 年度末までには、新規撮影画像の追加公開や連携機関の拡大、試行ウェブサイトの新機能開発などを視野に入れ、試行から本稼働フェーズへ移行することを目指しています。

<試行ウェブサイト>

富士川文庫デジタル連携プロジェクト

http://www.kulib.kyoto-u.ac.jp/rdl/digital_fujikawa/index.html

<公開資料件数>

京都大学： 4,710 件

慶應義塾大学： 450 件（今後約 1,000 件以上を順次追加予定）

※2018年9月28日現在

